

米軍基地関係特別委員会記録
＜第1号＞

平成20年第1回沖縄県議会（2月定例会）

平成20年2月13日（水曜日）

沖 縄 県 議 会

米軍基地関係特別委員会記録<第1号>

開会の日時

年月日 平成20年2月13日 水曜日
開 会 午後3時03分
散 会 午後5時07分

場 所

第4委員会室

議 題

- 1 軍使用土地、基地公害、演習、跡地利用計画等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立（在沖米海兵隊員による少女暴行事件について）
- 2 軍使用土地、基地公害、演習、跡地利用計画等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立（在沖米海兵隊員によるタクシー強盗致傷事件について）

出 席 委 員

委 員 長	親 川 盛 一 君
副 委 員 長	岸 本 恵 光 君
委 員	佐喜真 淳 君
委 員	新 垣 良 俊 君
委 員	照 屋 守 之 君
委 員	小 渡 亨 君
委 員	渡嘉敷 喜代子 君
委 員	新 川 秀 清 君
委 員	上 原 章 君
委 員	金 城 勉 君

委員 喜納昌春君
委員 嘉陽宗儀君
委員 當間盛夫君

委員外議員 なし

欠席委員

なし

説明のため出席した者の職・氏名

知事公室長 上原昭君
基地対策課長 平良宗秀君
教育庁教育指導統括監 金武正八郎君
警察本部刑事部長 日高清晴君

○親川盛一委員長 ただいまから米軍基地関係特別委員会を開会いたします。

本委員会付議事件軍使用土地、基地公害、演習、跡地利用計画等米軍基地関係諸問題の調査及び対策の樹立に係る在沖米海兵隊員による少女暴行事件について及び在沖米海兵隊員によるタクシー強盗致傷事件についてを一括して議題といたします。

本日の説明員として知事公室長、教育庁教育指導統括監及び警察本部刑事部長の出席を求めております。

まず初めに、在沖米海兵隊員による少女暴行事件について及び在沖米海兵隊員によるタクシー強盗致傷事件についての2件を審査いたします。

ただいまの付議事件2件について、知事公室長の説明を求めます。

上原昭知事公室長。

○上原昭知事公室長 ただいま議題となっております在沖米海兵隊員による未成年者に対する暴行被疑事件について、県の対応を御説明いたします。

平成20年2月10日午後10時35分ごろ、北谷町で未成年者に対する暴行被疑事件が発生し、翌11日午前2時13分米海兵隊員が被疑者として逮捕されました。このような事件は、女性の人権をじゅうりんする重大な犯罪であり、特に被害者が中学生であることを考えれば決して許すことはできず、強い憤りを覚えるものであります。県は、これまで米軍人による悪質な暴行事件が発生するたびに、再発防止を徹底するよう米軍等に繰り返し強く申し入れてきたところがあります。そのような中、またもやこのような事件が発生したことは極めて遺憾であります。

県は2月11日午前7時15分ごろ、沖縄県警察本部から今回の事件に関する第一報を受け、同日午前、今回の事件に対する知事コメントを出しております。また同日午後には在沖米国総領事に対し、翌12日午後には在日米軍沖縄地域調整官、在沖米海兵隊基地司令官、特命全権大使沖縄担当及び沖縄防衛局長に対し、このような事件が二度と起きないように一層の綱紀粛正及び隊員の教育の徹底を含め、再発防止について万全を期し、その措置の内容を県民に公表するよう強く要請したところがあります。さらに12日火曜日に来庁した在日米軍沖縄地域調整官及び在沖米国総領事や、13日に来庁した駐日米国大使、在日米軍司令官、外務副大臣及び参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会委員長に対し、遺憾の意を表明し、再度同趣旨の要請をいたしました。

県としては、今後も捜査等の進展を踏まえつつ、被害者及び御家族の心情や意向にも十分配慮し、適切に対応していきたいと考えております。

引き続き、沖縄市で発生したタクシー強盗致傷事件について、県の対応を御説明いたします。平成20年1月7日月曜日午前3時40分ごろ、沖縄市美原において未成年者を含む在沖米海兵隊員2人が、タクシー運転手の後頭部を殴打して傷害を負わせ、代金を支払わずに逃走するという事件が発生しました。県は同日、外務省沖縄事務所及び沖縄防衛局に対し、翌8日には在沖米海兵隊外交政策部に対し、このような事件が二度と起きないように、綱紀粛正及び教育を徹底し、再発防止について万全を期すよう要請しております。

○親川盛一委員長 知事公室長の説明は終わりました。

次に、教育庁教育指導統括監の説明を求めます。

金武正八郎教育庁教育指導統括監。

○金武正八郎教育指導統括監 ただいま議題となっております在沖米海兵隊員による少女暴行事件について、県教育委員会の対応を御説明いたします。

平成20年2月11日午前2時13分ごろ、北谷町で発生した女子中学生に対する

暴行事件の被疑者として、米海兵隊員が逮捕されました。このような事件は、女性の人権をじゅうりんする重大な事件であり、特に被害者が中学生であることを考えれば、本県児童生徒23万人の命を預かるものとして、強い憤りを感じるとともに、決して許すことができません。

県内では、これまで米軍人等による事件、事故が頻発し、そのたびに県民から不安と怒りの声が出ております。

しかしながら、このような事件が発生したことは、これまでの事件、事故防止などの綱紀粛正の努力や、過去の教訓が十分に生かされていないと言わざるを得ず、極めて遺憾であります。

県教育委員会は、知事公室と連携し、2月11日には在沖米国総領事、翌12日には在日米軍沖縄地域調整官、在沖米海兵隊基地司令官を直接訪問して強く抗議するとともに、沖縄防衛局長及び特命全権大使沖縄担当に対し、再発防止について万全を期し、米軍に強く働きかけていただくよう要請を行ったところであります。

また、今回の事件を受けて、県内の全市町村、教育委員会及び県立学校長に対し、児童生徒の安全指導及び安全確保の徹底について通知したところであります。

被害に遭った生徒は中学生であり、受けた恐怖による心の傷ははかり知れないものがあります。引き続き、被害者のプライバシーの保護に配慮しつつ、心のケアに取り組んでまいります。

県教育委員会としては今後、捜査の進展を踏まえつつ、米軍及び関係機関に対し厳しく対処していくとともに、被害生徒及び御家族の心情や意向にも十分配慮し、適切に対応していきます。

○親川盛一委員長 教育庁教育指導統括監の説明は終わりました。

次に、警察本部刑事部長の説明を求めます。

日高清晴刑事部長。

○日高清晴刑事部長 在沖米海兵隊員による少女暴行事件について御説明いたします。

本件は2月10日午後10時35分ごろから午後10時50分ごろまでの間、沖縄本島中部に住む女子中学生を被疑者宅に連れ込んだ後、被害者宅に送り届けるとして自己の運転する車に乗せ、本島中部一帯を乗り回した後、北谷町内の路上に駐車した後、車内において被害者に暴行を加えた事案であります。

県警察は、事件覚知後直ちに緊急配備を行い、被害者からの事情聴取、現場

付近の検索等の初動捜査を行い、自宅に舞い戻っていた被疑者である在沖米海兵隊キャンプ・コートニー所属二等軍曹タイロン・ルーサー・ハドナット38歳を緊急逮捕し、2月12日午後、那覇地方検察庁に強姦罪で事件送致したところでもあります。

引き続き、在沖米海兵隊員によるタクシー強盗致傷事件について御説明いたします。

本件は1月7日午前3時39分ごろ、在沖米海兵隊員2名がタクシー乗務員に対して、頭部を瓶で数回殴打し、全治1カ月の加療を要する頭部裂傷等の傷害を負わせ、タクシー代金の支払いを免れた事案であります。

県警察は、事件覚知後直ちに緊急配備を行い、目撃者からの事情聴取、現場付近の検索等初動捜査を行い、住宅街を徘徊している被疑者兩名を発見し、所要の捜査を実施した後、犯行容疑が固まったことから、被疑者在沖米海兵隊普天間航空基地所属海兵隊伍長ジョセフ・ウェイン・リドル20歳及び19歳の少年を1月7日通常逮捕し、1月8日、那覇地方検察庁に強盗致傷罪で事件送致しております。

なお、那覇地方検察庁においては、1月28日に成人男性を起訴し、少年については家庭裁判所に送致したと承知しております。

○親川盛一委員長 刑事部長の説明は終わりました。

これより、在沖米海兵隊員による少女暴行事件について及び在沖米海兵隊員によるタクシー強盗致傷事件についてに対する質疑を一括して行います。

質疑に当たっては、重複することがないように簡潔にお願いいたします。

なお、質疑・答弁に当たっては、挙手により委員長の許可を得てから行うようお願いいたします。

質疑はありませんか。

嘉陽宗儀委員。

○嘉陽宗儀委員 後で決議することになっている文面にも出ていますが、刑事部長、去年の10月1日にも飲食店の女性がビール瓶で殴られて気絶し強姦されるという事件がありましたが、これについても状況報告できますか。

○日高清晴刑事部長 本件は昨年10月1日午前4時から午前4時50分ごろの間、沖縄市の飲食店内において飲食店の女性従業員22歳に対し、顔面をビール瓶で殴打する等して顔面打撲傷等全治1週間を要する傷害を負わせ、暴行を加えた事案であります。県警察においては事件覚知後、現場付近の聞き込み、鑑

識活動、現場から逃走した不審車両の割り出し等所要の捜査を実施しております。その結果、昨年10月9日までに本件容疑者を割り出し、同人が米軍関係者、家族であったことから、米軍当局の協力を得て、所轄沖縄警察署に任意同行をした後、強姦致傷罪で逮捕しております。本件につきましては、10月31日に強姦致傷で起訴されております。

○嘉陽宗儀委員 この3カ月の間でも婦女暴行事件、タクシー強盗事件、それから表には出ていないが未遂事件とか頻発していますよね。私は沖縄市に住んでいて特に感じるのですが、事件当日コザミュージックタウンで、そこにいた中学生が話し合いで連れて行かれたのですが、その地域の米兵の状況は警察はつかんでいますか。

○日高清晴刑事部長 その当時被疑者につきましては、そこを車でずっと往復して遊んでいたという状況だったということです。

○嘉陽宗儀委員 特にペイデーなんかのときは街の中に繰り出して、四、五名で闊歩して、女性が通ったらみんな声をかけるという光景が、沖縄市ではよく見られるんです。だから事件にはなっていないが、いつ犯罪に巻き込まれるかわからないような状況がありますが、警察としては、治安の強化のためにはこういうことについてちゃんと掌握していますか。

○日高清晴刑事部長 警察といたしましては、沖縄警察署に涉外機動警ら隊を設置しまして、外人事件の取り締まり等に従事させております。

○嘉陽宗儀委員 私が聞きたいのは、向こうに住んでいるといつ何どきそういう事件が発生するかわからない状況に置かれた中で、県民の生活と安全を守るという県警察の任務からして、当然実態を掌握して、そういう事件が発生しないように十分な警戒態勢を含めてやるべきだと思うのですが、それはどうなっているのですか。

○日高清晴刑事部長 警察といたしましては先ほども申し上げましたとおり、そういう取り締まり班を設置するとともに、交番に警察官を配置いたしまして、ペイデー等の場合には増員して取り締まりを実施しているところです。

○嘉陽宗儀委員 こういう事案が発生しかねない状況が続いていますから、今

後もぜひ教訓として、県警察の責任においてこういう犯罪は絶対発生させないという決意を県民に表明しておくべきだと思うんですがどうですか。

○日高清晴刑事部長 今後とも体制を強化して取り締まりを実施していくというところでもあります。

○嘉陽宗儀委員 今度は知事公室長にお聞きします。知事公室長の説明を聞いて、この件で在日米国大使を含めて米軍関係者に抗議はしていますか。

○上原昭知事公室長 先ほども申し上げましたように、在日米軍沖縄地域調整官、それから在日米軍司令官に対し遺憾の意を表明したところでもあります。

○嘉陽宗儀委員 遺憾の意の表明と言っていますが、在日米軍司令官のライト中将とか、シーファー駐日米国大使が知事に会っておられるようですが、この中で抗議はしましたか。

○上原昭知事公室長 シーファー駐日米国大使等についても、同様に遺憾の意を表明したところでもあります。

○嘉陽宗儀委員 抗議をしたのですかと聞いているのです。

○上原昭知事公室長 ですから遺憾の意を表明いたしました。

○嘉陽宗儀委員 沖縄市の東門市長の行動を見たら、抗議と要請を明確に使い分けてやっています。外務省沖縄事務所とかには要請になってはいますが、米軍関係については、遺憾の意を表明するのではなく明確に抗議するという言葉をちゃんと区分けして使っているんですよね。それで私は気になって皆さん方の文書を見たら要請するになっているものですから、要請すると抗議するは同じじゃないと思うんですが。だから改めて聞きますが、皆さん方の文書には要請いたしますになっています。抗議はなぜしなかったのですか。

○上原昭知事公室長 このような事件が発生したことについては遺憾の意を表明し、これは当然抗議の趣旨を含んでおりますが、あわせて今後の再発防止に取り組むよう、そのことについては要請をしたところでもあります。

○嘉陽宗儀委員 そうすると、要請と抗議は同趣旨で使っているということですか。

○上原昭知事公室長 このような事件が発生したことについては遺憾であると申し入れまして、今後はこういうことがないように再発防止策に力を入れてほしいということを要請したわけです。

○嘉陽宗儀委員 抗議もできない知事の姿勢ということで私は断じておきます。それから被害少女の気持ちの問題について、先ほど教育庁の説明で述べていましたが、この少女は一生重い荷を背負って生きていかなければいけないですよ。その心情を察していますか、知事公室長。

○上原昭知事公室長 大変悲しい気持ちでございます。

○嘉陽宗儀委員 私どものほうに、前に米兵に高校生のときに強姦された女性が、一生夢も希望も打ち砕かれて苦悩していて、この人はだれにも黙って何も言わなかったけれども、あの1995年の暴行事件のときに、自分が黙っているからこういうことが起こったんだと、本人は米兵に仕返しするためにやくざとかかかわったり、いろいろな人生を繰り返すけれども、それでは解決しないと我々のほうに打ち明けてきたけれども。その被害少女の将来のことを考えると非常に胸が痛い。口先だけで遺憾でありますでは済まされないんですよ。知事公室長の娘が遭ったらどんな感じになりますか。

○上原昭知事公室長 私にも娘がおりますので、同様の気持ちであります。

○嘉陽宗儀委員 遺憾の意だけじゃなくて明確にやらないと、知事は抗議もしなかったからって、また大幹部が来ても、抗議の意思表示をする機会があったにもかかわらず、やらなかったというのは重大問題ですよ。これまでの犯罪が幾らあったかについては聞く必要はないけれども、そのたびごとに綱紀粛正を申し入れている。そうですよね。その綱紀粛正を申し入れて効き目があったと思いますか。

○上原昭知事公室長 米軍との間で米軍人・軍属等による事件・事故防止のための協力ワーキングチームをつくったりして、再発防止対策についても話し合っているところですが、たびたびこのような事件が起こっていることについて、

なかなか成果が上がらないということについては大変残念だと思っております。

○嘉陽宗儀委員 事件、事故が発生するたびごとに、アメリカでもワーキングチームをつくって兵隊の教育をやりますとか、基地外に出るときにはいろいろ教育をやってますとかあるけれども、事件は連続して繰り返されている。知事公室長なりに何が問題だと思いますか。

○上原昭知事公室長 やはり教育をさらに徹底する必要があると。教育にまだまだ不十分なところがあるのではないかと、そういう面もあるかと思えます。

○嘉陽宗儀委員 今までのことから見て、どんなに教育しても軍隊である以上なくならないですよ。しかし少なくとも再発防止と言うからには、県としても具体的な対応を求めるべきだと思うんですね。ただ教育してくれというだけではなくて。それは考えていませんか。

○上原昭知事公室長 今回そういうことも含めて、米軍やアメリカ政府等に対して、どのような具体的な対応策があるのか、県民にきちんとわかりやすく公開、説明してほしいと申し入れを行ったところであります。

○嘉陽宗儀委員 米軍は兵隊の管理をきちっとしますと絶えず言っていますね。これはどのように管理をきちっとしているか、皆さん方は聞いていますか。

○上原昭知事公室長 今回も兵隊を集めて、上級幹部の方からいろいろ訓示をしたりしたということも聞いております。

○嘉陽宗儀委員 犯罪を防ぐためには、前は基地外に出るのを制限するとかいろいろあって、今道路のほうに思いやり予算でつくった米軍住宅からトンネルを掘っていますが、あの理由は、基地外に米兵が出るといろいろトラブルを起こすので、できたら買い物も一住宅と買い物できるところを直結したほうがいいとあって、あのトンネルも思いやり予算でつくっている。だから米軍自身が、軍隊が基地外に出ると犯罪を起こす危険性があるとあの中で言っていますよね。その予算の中身はつかんでいますか。

○上原昭知事公室長 思いやり予算の中でトンネル工事の予算があったことに

については承知しておりますが、おっしゃったような目的であるかどうかについては承知しておりません。

○嘉陽宗儀委員 あれを見ると、道路の下を通してトンネルをつくっているけど、本題は基地の外に出ないようにということだと言っていますよ。問題は、基地内だけにいたら犯罪は基地内だけで済むんですが、どんどん民間地域に出ているわけでしょう。特に目立つのは11月議会でも問題にしましたが、基地外に米軍が住んでいる、この実態をつかんでいますか。

○上原昭知事公室長 数字については把握しておりません。

○嘉陽宗儀委員 前の議会でも掌握するように言いましたが、まだやっていないというのはそれだけで問題がありますが、先ほど県基地対策課の方に聞きましたが、米軍の契約住宅の実数を出してください。

○平良宗秀基地対策課長 米軍によりますと、登録している貸し住宅の全体の数は6098戸、そのうち契約しているものが5107戸ということです。これは平成19年9月の数字です。

○嘉陽宗儀委員 この6098戸の内訳は、部隊名でわかりますか。

○平良宗秀基地対策課長 部隊名では明らかになっておりません。

○嘉陽宗儀委員 この数値はどこから入手しましたか。

○平良宗秀基地対策課長 在日米軍沖縄地域調整事務所に照会したものであります。

○嘉陽宗儀委員 私は沖縄市のことが気になって、沖縄市へ問い合わせしてみたら、沖縄市内にそういうことでやっているのが空軍だけで2800戸、海兵隊や陸軍は軍事上の機密で教えられないと。実態が掌握されていないということで、全体的に米軍は沖縄の民間地域に住んでいる人たちについても、軍事上の機密を持ち出して、実態も教えないというのがありますから、県として正式に、県民の間に住んでいる軍隊の実態について、数値を要求して掌握すべきだと思うのですがどうですか。

○上原昭知事公室長 いろいろ照会して、現在つかんでいるところでありますが、さらに詳しい数値が把握できるかどうか検討してみたいと思います。

○嘉陽宗儀委員 基地内に米軍住宅は何世帯あるかわかりますか。

○平良宗秀基地対策課長 基地内住宅の全体の数というのは手元にはありません。

○嘉陽宗儀委員 これは私どもの方で資料を入手しましたが、大体8300世帯くらいと言われていています。ところがそこに住まないで基地外に出てきて住んでいるということが、今回の事件を引き起こす大きな要因になっているのですが、そうするとこの問題をもっと重視しないと、米軍は徹底した教育を行いますとか、兵隊の管理をちゃんとしますと言うけれども、実際上は勤務が終わったら、軍の管理下から離れて民間地域に行くわけでしょう。そういう実態で米軍に綱紀肅正を求めたり、兵隊の管理を求めることができると思いますか、知事公室長。

○上原昭知事公室長 公務を外れて基地の外へ出て行くのを米軍がとめたりできるかについては、これは米軍の問題だと思っております。

○嘉陽宗儀委員 私が聞いているのは、事件、事故が発生するたびごとに綱紀肅正、再教育を求めると言っている。それは基地内に住んでいて、ちゃんと指揮命令系統や管理がきちっとできる体制ならいいですよ。ところが勤務時間が終わったら、一般人として、民間地域でアパートを借りて住んでいるわけだから、そこで酒を飲んで、悪さもいろいろやるわけでしょう。今回もそうでしょう。北中城村に住んでいる人がそういうことをやる。今の知事公室長の態度では、これについては米軍の問題でありますからということで、犯罪防止をちゃんと求める態度だと言えるのですか。これを何とかしないといけないでしょう。綱紀肅正と言って、実際に米軍が兵隊を管理していますと言っても、勤務時間が終わったらみんな民間地域に行って暮らしているのだから、軍の管理は及ばないでしょう。そういうところで犯罪が起こっているんでしょう。犯罪予防というのであればこのところにしっかりメスを入れないと、同じことが繰り返されるんだよ。それを米軍の問題ですと言って済ませるのですか。

○上原昭知事公室長 先ほど申し上げたのは、基地の勤務を終えた軍人が、基地の外に出るのをとめることができるかどうかについて申し上げたものでして、県としてそこまでどうのこうの申し上げることはできないのかなと思っております。

○嘉陽宗儀委員 前も基地外で酒を飲んで犯罪を起こすということで、8時以降は基地の外に出さないと言って問題になったのもありましたよ。だからそういった意味ではもっと具体的に、なぜ犯罪が発生しているのか。発生する状況というのは民間地域で野放しになっていて、軍の管理が及ばない。そういうのを重視しないと、これについて県として、県民の生命、財産、人権を守るという観点から、きちっと皆さん方なりに検討もして、ちゃんと申し入れていくべきじゃありませんか。

○上原昭知事公室長 今回米軍サイドに対して、どのような再発防止対策があるか、具体的に県民に明らかにしてほしいと申し入れておりますし、今後我々としても米軍人・軍属等による事件・事故防止のための協力ワーキングチームの会合等で、その辺の問題についても話し合っていきたいと思っております。

○嘉陽宗儀委員 知事公室長にこれ以上言ってもしょうがないんだけど。大体余りきちっとやろうという気がないみたいだから。特に沖縄市は琉米親善といって、いろいろな行事にアメリカ兵も参加して、向こうはよき隣人といっている話してくる。警戒心はないですよ。でも今回中学生の皆さん方は、暴行されるという危険性を感じてそういったことをやるわけじゃない。街や地域を挙げて、いろいろな行事は米軍も一緒なんだ。エイサーも一緒にやる。よき隣人と言いながら。しかし実際はそういう犯罪に絡んでくる。中学生なんかはもちろん興味本位で話しかけるとかあるけれども、それを言葉巧みに誘って、暴行することは絶対許されない。普通だったらアメリカ人に寄るなよならわかるよ。しかし、街を挙げて琉米親善交流事業をどんどんやっているんだから。そういう中だったら少女が警戒するはずがないでしょう。それを利用してこういう犯罪を起こすのは絶対許されない。それについて知事公室長の決意は、今自分の娘だったらどうなるか聞いたけど、本当に県民の子供を絶対アメリカの兵隊どもに犯させないという決意をしないと、この事件はなくなりませんよ。県として、もっと毅然たる態度で、こうすべきだという方策をもって臨んでくださいよ。決意を聞いて終わります。

○上原昭知事公室長 決して二度とあってはいけないという事件ですので、知事からも再発防止にはこれまで以上に強い決意で取り組んでいただきたいと、そして具体的にどのような方策をもって対応するのか、県民の前に公表してもらいたいと強い調子で申し入れておりますので、その辺については今後とも、米軍に対して強く求めていきたいと思っております。

○親川盛一委員長 ほかに質疑はありませんか。
金城勉委員。

○金城勉委員 本当に悲しい事件がまた起こったということで、県民こぞって怒り心頭に発していると思うんですが、まず状況をちょっと確認したいのですが、少女たちと米兵とが接触するような状況あるいは前後の状況がどうだったのか御説明ください。

○日高清晴刑事部長 子供たちは塾が終わって遊んで帰り、その被疑者は車でゲート通りをずっと流して遊んでいた。そこでたまたまばったり会ったという状況です。

○金城勉委員 たまたまばったり会って、それだけでオートバイに乗っていったという状況ですか。

○日高清晴刑事部長 たまたまそこで会った。そこで洋服がきれいとかきれいじゃないとかいう話になって、遊びに行く、家まで帰る、結局送っていくということで家まで送っていったというのが状況です。

○金城勉委員 米兵はその被疑者だけだったのですか。

○日高清晴刑事部長 被疑者1人です。

○金城勉委員 この逮捕された被疑者は、軍の中ではどういう立場で、どういう人物だったかわかりますか。

○日高清晴刑事部長 そこまで詳しく話は聞いていないのですが、所属は第3海兵師団の二等軍曹で、下士官クラスということです。

○金城勉委員 これまで海兵隊員の事件、事故というのは、割と若い青年たちがほとんどだったのですが、今回起こした人物は二等軍曹で、年齢も38歳ということから、一定の部下を持つ指導的な立場にあるかと想定されるのですが、その辺の状況はどうですか。

○日高清晴刑事部長 逮捕してきょうが拘留質問ですので、まだ詳しいことは聞いておりません。

○金城勉委員 知事公室長、その辺のところはわかりますか。

○上原昭知事公室長 詳しいことについては承知しておりません。

○金城勉委員 先ほどの話にもありましたように、未熟な初年兵とかでもない、38歳と、ある程度のキャリアを積んだ二等軍曹という立場の人物が、こういう事件を起こしたということは、米軍のモラル、綱紀がこれまでの事件、事故の学習効果が全くない、教育プログラムも綱紀粛正もほとんど効果を発揮していないという結果になると思うんですね。これまでもさまざまな形で、事件、事故が起こるたびに抗議、申し入れ等いろいろなことを展開してきて、我々も党としてきのうやってきたのですが、やはりその場においては二度とこういうことを起こしません、いろいろな対策をとりますと言いながら、ましてや部下を指導する立場の人間がこういうことを起こすということは、いかに軍の規律が乱れているかということにつながるかと思うんですね。ですからそういう意味では、県としてももっと強く毅然として抗議し、対応していかないとはいけませんが、知事公室長、どうですか。

○上原昭知事公室長 おっしゃるとおりでございまして、やはり従来以上の取り組みの強化について米軍サイドにも申し入れ、また我々県サイドとしても具体的な対策について、米軍人・軍属等による事件・事故防止のための協力ワーキングチーム等の会合あるいはその他のいろいろな機会を通じて、米軍側からもそのような対策、具体的対応策について明らかにするよう、強く求めていきたいと考えております。

○金城勉委員 刑事部長にお伺いします。今後の捜査の展開はどうなりますか。

○日高清晴刑事部長 現在押収している証拠の分析、取り調べを進めて、事件

を起訴に持ち込むということを考えております。

○**金城勉委員** 今回の意見書や抗議決議の中にもありますが、被害者への謝罪及び補償の問題について、米兵は公務外でこういう事件を犯しているのですが、そういう意味での謝罪や補償について、見通しとしてはどのように考えていますか、知事公室長。

○**平良宗秀基地対策課長** 示談が可能かどうかということもありますが、一般的には当人に資力があれば、その当人が補償等を行うということになっておりますが、それができない場合には日米で損害額等の算定の協議に入ります。それ以外に、過去には慰謝料や見舞金の支払い手続等が設けられておりますが、いずれにしても事件が確定して、それから損害額についての調整になると考えています。

○**金城勉委員** 公務外での事件なだけに、やはり心配なんですね。加害者がどういう形で被害者に対して謝罪、補償するのか、できるのか。場合によってはそういうことをせずに事件が終わってしまう、あるいは逃げてしまうという懸念も非常に強いんですね。そういう意味では県も国もその少女や家族に対して、本当に実のある謝罪や補償の仕方というものを、具体的に行政側が県と国と協力しながら、しっかり実施しないといけないと思うのですが、それについての決意はどうですか。

○**上原昭知事公室長** 現在、制度的に補償するということまでにはないということについては問題だと思っております、ぜひ法的にも明確に規定するよう、今後取り組みの強化は図っていきたいと思っておりますが、しかし現在のことについて、どのような補償等の対策がとれるかどうかについては、政府のほうとも相談していきたいと思っております。

○**親川盛一委員長** ほかに質疑はありませんか。
渡嘉敷喜代子委員。

○**渡嘉敷喜代子委員** 知事公室長、先ほどからやりとりを聞いていて、私はひどくいらいらして、本当に怒りが込み上げてくるんですよ。県の姿勢として、この問題をどんなふうにとらえているのかという気がしてならないんですね。先ほどの答弁で、遺憾の意を表明した、今後このようなことがないように要請

していくと。どうして抗議ができないのか。そして米軍側に対して県民の前に明らかにしてほしいとか言っていたのでは、これまでどおり綱紀肅正を訴えてきましたが、それが結果としてまたこのようなことが起こっているわけですね。そのことに対して、県としての姿勢が問われているのですよ。それについてこれから具体的にどう働きかけていくのか、そのあたりをお聞かせください。

○上原昭知事公室長 遺憾の意をという表現ですが、先ほども申し上げましたように当然抗議の趣旨を含んでおりまして、そういう意味で申し入れを行いましたし、今後あらゆる機会を通じて、具体的な対応策について米側に強く申し入れていきたいということでございます。

○渡嘉敷喜代子委員 今回の事件は、軍の管理下でない民間地域に住んでいる、よき隣人だったであろう人が事件を起こしているわけです。そして少女についても何の非もありません。当然だれでも行けるようなところで遊んでいたわけですね。そこでこの子を連れ出してこういう結果になったということになるわけです。先ほどの質疑の中にもありましたが、民間地域に住んでいるのがどれくらいかわからないという答弁でしたが、単身で住んでいる人がどれだけいるのか、そのあたり把握していますか。

○上原昭知事公室長 全体の数を承知しておりませんので、その中で単身の人の数についても承知しておりません。

○渡嘉敷喜代子委員 先ほどから話されているように、基地の中に住んでいる人たちに対しては門限とかいろいろな拘束もあると思います。教育や綱紀肅正もやられているでしょう。ところが民間地域に住んでいることに対して把握ができていない。こういうことが今後もあり得るということに立って、県はそのあたりを把握していこうとか、どのようなことを考えていますか。

○上原昭知事公室長 これまでも米軍に対していろいろ照会しております。なかなか具体的な数値がつかめていない状況ですが、今後とも数値が把握できるよう照会等をしていきたいと思っております。

○渡嘉敷喜代子委員 この被害者が友人と一緒にいて、その中から連れ出されたということで、友人はもちろんのこと、学友たちに、この子が強姦されたということで、好奇のまなざしで見られるのではないか、秘密が守れない状況下

におかれているわけですね。この子にどういうケアをしていくのか、これがとても大切なことだと思います。補償の問題よりもこの子の心の傷ですね。それをどうしていくのか、それがとても大切なことだと思います。そのあたりこれからどうやっていくのかお聞かせください。

○**金武正八郎教育指導統括監** 被害に遭った生徒の心の傷ははかり知れないものがあると思います。現在担任を初め専門家を活用し、心のケアを行っているところでございます。やはりプライバシーの件もありますので、家族、本人に配慮しながら、臨床心理士とカウンセリング等専門的な対応を進めていこうとしております。

○**渡嘉敷喜代子委員** 取り調べについて、被害者から事情聴取をしたということですが、このときに性犯罪について二度も三度も事情聴取や裁判になると、二度も三度も強姦されるというような、本当に痛い目に遭わされるとよく言われております。被害者に対しての事情聴取のときに、専門官が当たってらっしゃるのかどうか。特に女性の人たちがそれにかかわっているのか、そのあたりをお聞かせください。

○**日高清晴刑事部長** 県警察では女性の犯罪捜査官として、性犯罪指定捜査員として女性警察官40名ほど指定しております。その警察官が沖縄警察署にもおりますので、その事件が発生したときにもすぐにその女性捜査官を呼び、取り調べに充てております。現在もその女性捜査官が1人で受け持って、女の子と連絡をとったり、心のケアもしているところです。

○**渡嘉敷喜代子委員** 教育委員会にお尋ねします。基地の中での英語教育や交流とかやっていますよね。今回の県の予算の、重点施策の中にも入っていましたが、基地内の米軍の中高生との交流も図っていくとかやられているわけですね。特に基地の中での英語教育について、今後どうしていけばいいのか、やはり検討していかないといけないことではないかと思いますが、どうなんでしょうか。

○**金武正八郎教育指導統括監** 教育はやはり人を信じる、お互いの信頼関係を築いていくことが重要だと思います。今回の事件で、こういうことをどうしていくかを考えるのは大変苦しいと思って、今答弁を考えております。

○渡嘉敷喜代子委員 今回の事件も、本当に言葉巧みに誘っていて、抵抗できる状況ではなかったと思います。恐らくいいおじさんという思いでついていったかもしれません。基地の中での教育がそれでいいのかという思いがしてならないんですよ。そのあたりも教育庁として今後検討していく必要があるんじゃないかと思いますが、どうなのでしょう。

○金武正八郎教育指導統括監 今基地との交流は、中学校で1週間程度交互に交流しております。その成果もありまして、また本県は次年度は小中学校で特に英語力を伸ばすという形でやっておりますし、そういうのもある中でこういうことがあると大変残念に思っておりますし、こういうことに結びつかないような形で、教育も配慮していきたいと考えております。

○渡嘉敷喜代子委員 知事公室長にお尋ねします。今回の事件で、1995年の少女暴行事件、これを本当に忘れたい、こういうことが起こって、この少女にもまた思いをはせらせるのかなということでは、本当に忘れたい、そうあってはいけないという思いで私たちは13年間過ごしてきたわけですね。ところがまた起こってしまったわけです。ですからあの1995年の少女暴行事件から今回のものは、その延長上にあると私は考えております。そしてあの1995年の少女暴行事件があつて、1996年に普天間基地が動いたわけですね。ところがそれが名護市辺野古へ県内移設として動こうとしているわけです。ですから基地がある限り、こういうことは起こり得る。起こっても仕方がない、起こるべくして起こったという思いがしてならないんですよ。そして綱紀肅正もこれまで盛んに言ってきました。このことをもっと踏み込んで、県として日米地位協定の抜本的改正にまで持っていけないといけないという、積極的な動きにしていけないと思いたいと思いますが、決意のほどをお尋ねします。

○上原昭知事公室長 日米地位協定の抜本的な見直しについては、県としても沖縄県軍用地転用促進・基地問題協議会や渉外関係主要都道県知事連絡協議会等とも連携しながら、見直しを政府に機会あるごとに要請しているところでして、今後とも具体的にどういう形で見直しの取り組みをやっていくのかを含めて、取り組みを強化していきたいと思っております。

○渡嘉敷喜代子委員 今回の事件が起こったとき、やはり日米地位協定の抜本的な見直しをしないとけないんだということを知事の口から聞いたかったです。それが全く出てこなかったですよ。本当に他人事で、日米両政府は普

天間基地がどうなるのかという大変な慌て方ですよ。ところが知事はそういうことも一言も言わない。そしてけさの琉球新報を見たときに、表敬訪問を受けた感じにしかありません。2005年の暴行事件が起こって表敬を受けたときに、稲嶺知事は本当に慚然として握手すらしなかったですよ。それが人間が本当にやるべきことなんです。ところが今回の知事の対応は何ですか。私はあの記事を見て本当に腹立たしさを感じました。どうしてあのとき日米地位協定の抜本的な見直しをやるべきだという抗議ができなかったのか。このことは本会議でも抗議したいと思います。そのことについてコメントをお願いします。

○上原昭知事公室長 今回の事件で日米地位協定のどこが具体的にどうなのかということについては、今後とも検討していきたいと思っておりますが、先ほどありました知事の姿勢については、新聞報道が適切であったかどうか疑問に思っております。

○親川盛一委員長 ほかに質疑はありませんか。
喜納昌春委員。

○喜納昌春委員 落としどころは綱紀肅正とかああなるんで、私は、知事はやはりシーファー駐日米国大使の送り方を間違ったと思いますよ。だってきのうは5時後で時間外だからって、超勤じゃないんだよ。在日米軍沖縄地域調整官を呼ぶんだから、怒る態度を見せるべきなんだよ。それをわざわざエレベーターホールまで送ってと細かく書かれているんだよ。異例の対応をして。今渡嘉敷委員が言うようにばんとはねるべきなんだよ。知事公室長、1995年以降決議を2001年、2004年、2005年にもわいせつ事件があるんだ。婦女暴行事件も含めたそういう事件は、1995年以降何件ありますか。

○日高清晴刑事部長 1995年以降、米軍構成員による強姦事件は14件発生しております。

○喜納昌春委員 僕は14回これをやっているんですよ。しかも戦後62年、どこに女性の皆さんが安心して生活できないという国や県がありますか。だから生ぬるいと言われるんだよ、知事公室長。知事は怒るべきだ。沖縄に住む県民の命と安全を守る第一義的な責任はだれにありますか。

○上原昭知事公室長 県民の暮らしと安全を守る責務に努めることは、知事の第一の努めだと思っております。

○喜納昌春委員 国民の命と暮らしと安全を守る第一の責任はだれにありますか。

○上原昭知事公室長 内閣総理大臣かなと思っております。

○喜納昌春委員 今度の強姦事件が起きたという、第一の責任はだれにあると思えますか。

○上原昭知事公室長 第一の責任はやはり被疑者だと思います。

○喜納昌春委員 そういうとらえ方もあるね。被疑者は何ゆえに沖縄にいますか。

○上原昭知事公室長 日米安全保障条約に基づいて、米軍が駐留しているわけですから、その条約に基づいて沖縄にいると考えております。

○喜納昌春委員 今の言い方だと、軍人だから沖縄にいるわけね。

○上原昭知事公室長 そうしたことだと思います。

○喜納昌春委員 それで、事件が起きました。知事は、第一義的に県民の命と安全を守らないといけないから、そういう意味での思いで責任を感じている。その重さと、提供した国の重さとどっちがどうなっていると思えますか。

○上原昭知事公室長 その辺は比較することは難しいのかなと思っております。

○喜納昌春委員 難しいね、知事公室長。だけど、提供責任者というのは、我々は基地の返還も含めて言っているわけだから、国にあるんだよな。だから仲井眞知事は怒って抗議しないといけない立場に立っているということなんだよ。提供したのは外務省、日本政府なんだよ。怒っていいんだよ。抗議しないといけないわけ。東門沖縄市長と一緒になんだ。何でそこで遠慮するの。遺憾に

思いますなんて、僕らは14回も聞いてきているんだ。何でそういう表現しかできないわけ。何で抗議できないの。あなた方が提供したんでしょう、第一義的には日米両政府がさせると言ってきたいるわけでしょう。どうして抗議できないのかというのを今県民は不審に思っているのよ。提供したのは政府なんだよ。この基地は本当は嘉手納基地、普天間基地含めてどこでもいいんだよ、岩国基地でも東京でも。沖縄にないといけないということではないんだよ。そういうことを思っているもんだから、知事の弱さを県民はひしひしと感じているから、シーファー駐日米国大使の送り方を私は間違っていると思う。14件も起きたんだから、今後は遺憾に思いますなんて表現じゃ弱いと思うよ。どうですか、知事公室長。

○上原昭知事公室長 先ほども申し上げましたが、遺憾であるという趣旨には抗議の趣旨も含んでいるということであります。

○喜納昌春委員 いずれにしても、県の生ぬるさが弱腰が、アメとムチだからね、我々はそれに負けちゃいけないと思う。それは認めない。ただ日米両政府の今度の対応をあなたは異例だと思いますか、どうですか。

○上原昭知事公室長 やはり事件の重大性を強く認識して、駐日米国大使以下外務省副大臣も含めて、沖縄に来て県知事にいろいろと申し述べたということについては、やはり日米両政府とも事の重大性を認識していると考えております。

○喜納昌春委員 これは14回もあるということの積み重ねだから、例えば10日に起きました。きのう在日米軍沖縄地域調整官が来たんだよな、そしてきょうは那覇市のかいわいを見てくださいよ。県警察は大分動員されて、駐日米国大使が来るんだよ。しかも外務省副大臣も来ているんだよ。外務副大臣は外務省沖縄担当特命全権大使のところに在日米軍沖縄地域調整官を呼びつけてやっているんだよ。やっているはずだが、実際はやっていないかもしれないね。逆に御苦労さまと言っているかもしれないね、日本政府は信用できないから。実際は外務省沖縄担当特命全権大使のところに在日米軍沖縄地域調整官が呼び込まれて、外務省副大臣も来ていますよ。この対応を県はどう受けとめていますか。こんな事件の中でこれほど迅速な対応は、日本政府も駐日米国大使もなかったと思うがどうですか。

○上原昭知事公室長 過去の事例で、日時的にどのような対応があったかについては詳しく承知していませんので、比較するわけではないのですが、私の認識としては、今回の日米両政府の対応は非常に早かったのかなと思っておりま

す。

○喜納昌春委員 そこですよ。迅速な対応をして当たり前。ですが実際はみんな後手後手おくらせてきた。今回だけはすごいんだよ。すごいということはこの事件の重さがあるんだ。しかも政治的な背景で、基地問題が今後どうなるかという読みがあるんだよ。だから知事は大きな鍵を持っているんだよ。普天間基地移設を粛々とやるかということも含めて問われているんだよ。その辺のこ

を感じて知事はやっているかというときに、この二、三日来の対応については、新聞号外から見れば厳しい顔をしているよ。顔は厳しいが、やっていることは違う。この辺の落差を私は残念に思っているわけ。だからこの問題については、今警察でも取り調べ中だから、まさに国際交流で英語教師も沖縄市を含めてみんな招聘して、大変な交流が進んでいるんだ。これが逆にストップするぞ。そういう意味で基地問題も含めて、大変な問題を含んでいるということを、僕はもう一度知事は認識すべきだと思うんだが。僕は日米両政府の対応を見ながら、県がどう厳しく出ないといけないかということは今一度検証すべきだと思うんだが、どうだろう。

○上原昭知事公室長 知事としても強い申し入れを行っておりますので、決して知事が歓迎して対応したということではないと思いますが、新聞報道によってその辺が誤解されているということであれば残念だと思います。

○喜納昌春委員 先ほど嘉陽委員からもいろいろあったんだが、基地内の管理については基地内だからかなり厳しくできるし、いろいろなことができるんだよ。基地外については、基地外であったからたまたますぐ逮捕されたんだよ。逮捕されたから、日米地位協定の問題は今後ろに來てはいるんだよ。しかし実際は基地内だったら同じ問題だよ。捜査権や逮捕権の問題ね。今度の場合はたまたま迅速にやられた。被害者や周囲も冷静に対応して、現行犯に近い形で逮捕できた。それで、我々社大党は在沖米国総領事館や沖縄防衛局にも行ったんだ。基地外の米兵の、安全管理も含めた生活実態が把握できていないと言ったんだ。これは恐らく把握されていないかもしれない。カンロイ首席領事はわからないと言ったんだ。本当にわからないのか。在日米軍沖縄地域調整官のところではちゃんと安全管理の問題が把握されているのか。例えば綱紀肅正につい

て教育をしますというときに、1995年以降やったかもしれないよ。基地内の場合については門限の問題も含めてしっかりできる。新兵の場合は何時と時間まであったらいいね。ところが基地外の場合は、どんな綱紀粛正の管理をしているか。恐らく在沖米国総領事館の言い分はわからないと言っているから、ちゃんと在日米軍沖縄地域調整官かどこかで把握してやっているのか。あるいはそのことを沖縄防衛局はわかっているのかどうか。これはわかっていますか。基地外の米兵の安全管理の仕方を、どこが把握しているか県はちゃんと把握していますか。

○上原昭知事公室長 米軍あるいは沖縄防衛局が、基地の外における米軍人の生活の実態について、どのように把握しているかについては、我々としては承知しておりませんが、綱紀粛正については米軍の教育等を行うわけですから、これは基地内だろうが外だろうが、同様に教育は徹底すべきだと考えます。

○喜納昌春委員 責任もって米軍がやるべきだよ。やっているかどうかを、ちゃんと沖縄防衛局が管理しているかどうかはわかっていますか。やっていると思っているの。やっていますか。自信があるの。

○上原昭知事公室長 沖縄防衛局が管理の実態について把握しているかどうかについては、承知しておりません。

○喜納昌春委員 承知していないなら、これでは無責任なんだよ。当然米軍がやるべき。だけどやっているかどうかの検証は、提供した日本政府はやらないといけない。やっているかどうかを確認していただけますか。まだやったことないでしょう。

○上原昭知事公室長 生活の実態について、軍も行政と考えるのならば、個人の生活にどこまで踏み込んで管理できるのか、これは非常に難しい問題があると思います。しかしできる範囲内で、米軍としても県民と交流も含めて親しくやっているわけですので、その辺の交流のあり方等についても当然米軍としてもっと力を入れるべきだと思いますので、基地の外での生活や交流のあり方についても、今後米側にも相談や申し入れをしていきたいと考えます。

○喜納昌春委員 だから、米軍一般を言っているんじゃないんだよ。基地外にしようが軍人だから、その米兵が公務外の私生活の中で起こした事件なんだ。

しかし事については、基地内にいようが外にいようが、結果として起こしたら事件の重大さは同じなんだよ。だから迅速に対応して当たり前。今このような格好で、私生活やプライバシー云々されたら、この事件についてはいよいよ今後絶てないぞ。また起こるぞ。だったら基地から出すなという格好になりかねないぞ。そんな人道的な物わかりのいい答弁はしなさんなということなんだよ。軍人だったら、兵隊である限り基地内にいようが外にいようがちゃんと米軍が私生活も含めて管理すべきだし、こんな事件、事故につながるんだったら、その間についての点検は沖縄防衛局が当然しないといけない。プライバシー云々の話じゃないと思うんだよ。これの認識をあいまいにすると、今の答弁じゃまたかということになってしまうんだよ。この辺のところをもう少し毅然として、軍人なんだから、一般の米国人のことを言っているんじゃないんだよ。もう一度決意を聞かせてください。

○上原昭知事公室長 基地内に居住する米兵でも基地外に住む米兵でも、綱紀肅正等に関する教育はこれまで以上に徹底すべきであると、今回も申し入れておりますし、やはり区別なく地域住民とのトラブルがないよう、管理のあり方も含めて、米軍あるいは沖縄防衛局とも相談や申し入れをしていきたいと考えております。

○親川盛一委員長 ほかに質疑はありませんか。
 當間盛夫委員。

○當間盛夫委員 まさに起こってはいけない事件であるんですが、1995年から14件ということで、たびたび抗議もしてきたと。しかし行政含め我々議会も、今度こういう形で県民の児童、生徒の安全を守れなかったという責任を、我々議会もしっかりと受けとめないといけないと思っております。これから何をどうしていくんだということにもなってくると思います。今度の少女暴行事件、そしてタクシー強盗致傷事件を含めて、海兵隊の事件が多くあるわけなんです。その海兵隊のものからすると、どうしても我々が今基地問題ということになると、普天間基地移設で名護市辺野古のものが大きくなっていくわけですよ。我々が、こういう事件、事故がありながら、みずから米軍施設を提供していくと。それからすると知事のコメントがちょっと気になるんですよね。普天間基地移設に直接の影響はないだろうというコメントを発しているのですが、これは知事公室長としてはどうお考えですか。

○上原昭知事公室長 現在、県としては、普天間基地の移設を一日でも早く実現してほしいということで、今取り組んでおりますが、当然普天間基地の移設は現在米軍再編の中で、嘉手納基地より南の基地の返還ということも含めて進められるべきだと思っておりますし、それによって沖縄から8000名の海兵隊がグアムへ移転すると。具体的な数字が今後どうなるか不明なところもございますが、いずれにせよ基地の整理縮小を、一日でも早く実現していくということが重要な課題であるということで取り組んでいるところです。

○當間盛夫委員 これが起きるたびにいつも綱紀粛正、再発防止という言葉自体が本当にむなしく感じる部分でもありますので、真剣になって整理縮小、米軍基地のあり方というのをどうするか、議会と一緒に考えていければと思っております。県警察のほうにお尋ねしたいのですが、先ほども基地の外で賃貸が6000戸余りあるということがあります。現実には今回被疑者は北中城村で、北谷町にも米兵の皆さんが多く住まわれているというところで、その後の安全対策はどうとられていますか。

○日高清晴刑事部長 県警察といたしましては、先ほども話しましたが涉外機動警ら隊それから本部が直轄している自動車警ら隊、機動捜査隊を動員して、事件発生地帯の警らを強化しております、対策をとっているところです。

○當間盛夫委員 毎日ですか。

○日高清晴刑事部長 はい、そうです。

○當間盛夫委員 先ほどペイデーの日を中心にとのお話だったものですか。これは北谷町や沖縄市を含めて、重点地域に県警察の方が配備されているということですか。

○日高清晴刑事部長 北谷町美浜の事件発生後、向こうに警備派出所も設置しまして、夜間の警察官の常駐等もやりまして体制を強化しております。

○當間盛夫委員 これは県警察単独ですか。

○日高清晴刑事部長 県警察本部と所轄が一緒になってやっているということです。

○**當間盛夫委員** 今回を含めると、米軍のMPを含め、県警察と地域の人たちが一体となって、これからの県民の安全を守っていかないといけないと思っておりますので、これだけ事件が多発しているわけですから、県警察単独ではなく米軍や地域住民との協力体制はどう構築される予定ですか。

○**日高清晴刑事部長** 地域住民とは外郭団体を通しましてちゅらさん運動等行って、警察と連携して防犯活動を行っていただいています。米軍とは県警察がやっているわけではないのですが、米軍自体で上司が生活指導をするということで夜間腕章をして出て行って、沖縄署管内で指導をしているという状況です。

○**當間盛夫委員** 米軍関係の部分と、地域の皆さんと一体となって、ぜひ構築できるようなものをつくっていただきたいと思います。教育庁のほうなんですけど、今回14歳の子で塾帰りだったというところですが、児童生徒の安全対策は教育庁としてはもう目いっぱいなのですか。

○**金武正八郎教育指導統括監** 今回の事件が発生しまして、これまでも行っていましたが再度児童等の安全5項目の確認の徹底、登下校時や帰宅後の安全確保、それから児童生徒の危険回避能力の育成等各PTAを初め各学校長あてに通知文で依頼したところであります。子どもたちの安全5項目というのは、不審者と思われる者に近づかない、絶対ついて行かないということで、ほかに4つ挙げております。そういう形で、子供たちの命を守るために、子供たちにもそういう指導をするとともに、大人もスクールガードとかいろいろな形で子供たちを守っていくことを進めていきたいと思っております。

○**當間盛夫委員** 他人事ではない部分があるわけですから、我々は何度も抗議活動をしています。最初に申し上げたように行政を含め、我々議会、県警察、教育関係も、こういう形がたびたび起こることを我々も責任を持って、これからはしっかり対策を強固にしていけたらと思っておりますので、よろしく願います。

○**親川盛一委員長** ほかに質疑はありませんか。
上原章委員。

○**上原章委員** 県警察にお尋ねします。今回の事件は断じて許されることでは

なく、強い姿勢で臨んでいただきたいわけです。特に去年の10月に沖縄市で飲食店の女性の方が暴行を受けた事件、それからもう1カ月余り過ぎていますがタクシー運転手殴打事件、これはその後の進展はどうなっているか、今の段階でわかれば教えてください。

○日高清晴刑事部長 去年10月の沖縄市内の強姦事件については起訴されており、現在3回目の公判をしております。それから今年1月のタクシー強盗事件については、既に起訴されておまして、1名は少年ですので家庭裁判所に送致されておまして、1名は成人ですのでこれについては現在初回公判という段階です。

○上原章委員 いずれも基地の外で発生しているわけなので、しっかり地元警察が担当されていると思うんですが、このような事件は絶対うやむやにすることがないと信じているわけなんです。今回の少女暴行事件に関しても、しっかり捜査、事実確認をして、的確な対処をしていただけたらと思うのですが、その中でもう一点。知事公室長、こういう事件が起こるたびにいつも思うのは綱紀粛正、再発防止、再教育と関係機関や米軍から言われるのですが、実際どのような取り組みを行っているか、具体的な中身というのは県は承知していますか。

○上原昭知事公室長 先ほど申し上げましたが、米軍人・軍属等による事件・事故防止のための協力ワーキングチームというのがございまして、それは米軍、在沖米国総領事、県、県警察、外務省沖縄担当特命全権大使、市町村それから社交業組合等も含めて、防止対策についていろいろ意見交換等を行っております。例えば米軍としては、リバティキャンペーンプランの実施、これは公務時間外における事件、事故の予防のための米軍の指導方針なのですが、またその中にリバティカード制度という外出規制の実施、それから沖縄に派遣された初心者に対する教育プログラム等の支援等も含んでおりますが、そういう形で米軍の取り組みが行われておりますし、また市町村においては、例えば北谷町による美浜地域等における民間警備の実施や、自主防犯パトロールの実施、それから先ほども申し上げましたが、外務省沖縄事務所によります沖縄理解増進セミナーの実施等が、現在取り組みとして行われております。

○上原章委員 このような一つ一つの取り組みの効果は、その都度検証されていますか。

○平良宗秀基地対策課長 米軍人・軍属等による事件・事故防止のための協力ワーキングチームの会合では、先ほど知事公室長がお答えした制度や仕組みについて、どのように行われているか取り組み状況等が報告されていて、その際に犯罪の検挙件数の推移状況とかも見ています。そういった中では、犯罪の状況は一時期増加傾向であったものが、この三、四年は低下しているのではないかという検討もなされてはおります。米軍人・軍属等による事件・事故防止のための協力ワーキングチームの会合の中で、取り組みや犯罪の状況が議論されております

○上原章委員 今回本当にあってはならない未成年の女子中学生を、一生消すことができない傷を負わせてしまう事件が起きてしまいました。私は教育プログラム、特に米軍人の中でどれだけ、人権や駐屯している地域の方々とかかわり方等具体的なプログラムというのは、どのように基地の中で綱紀粛正として浸透しているのか、プログラムの中身を県民に明らかにしていく必要があるんじゃないかと。これは県のほうから強くそれを示して、このようにやっているんですと。だけでもこんな事件が起きるわけですから、これはいくらやっても事件がなくなる限り足りないなど。ですから、教育プログラムというのが具体的にどのような実効性をもってやっているのか、県民にしっかり示してほしいと思うんですが、どうですか。

○上原昭知事公室長 知事からの申し入れの中で、具体的な対応策について、県民の前に明らかにするようというのを強く申し入れております。今の御意見にもありますように、具体的な教育プログラム等の中身、その効果等についてもさらに米軍人・軍属等による事件・事故防止のための協力ワーキングチームの中においても、その辺を強く求めていきたいと思っております。

○親川盛一委員長 ほかに質疑はありませんか。
新川秀清委員。

○新川秀清委員 今回の事件で思うことは、やはり根を絶やさなければいけないんだということだと思っんですね。先ほども嘉陽委員や渡嘉敷委員からもありましたが、この種の事件が去年沖縄市でも米軍人の子弟によってありました。その後、10月14日には広島県でも起こっているんですね。これは岩国基地の海兵隊員によって起こされた事件です。共通していることは、やはり米軍の存在ということになるわけで、それと先ほどから知事公室長の答弁を聞いておりま

すと、恐らく委員会記録を明らかにすれば、全く同じ回答の繰り返しですよ。綱紀肅正、米軍人・軍属等による事件・事故防止のための協力ワーキングチームの設置でしょう。そのことが何ら実効性を持っていないということ、これが今回の事件に結びついているわけですよ。そういうことでは、不幸にして起こった1995年のあの事件が、沖縄の基地の整理縮小ということまで運動も起こってきましたし、政府においても整理縮小しなくてはいけないということまで起こってきたけれども、現実には沖縄の基地の、我々の目に見える形での整理縮小も出されていない。そして事件、事故も減っていない。こういった中で今回この痛ましい事件が起こっているんです。そういうことでは、先ほどから知事の姿勢が問われているのですが、本当に根を絶つために知事は何をなすべきかということ、真摯に考えるべきだと思うんですよ。例えば、これまで問題になってきた日米地位協定の抜本的な見直しも必要だということも言われてきました。そして基地の整理縮小なくしてはこれはもう厳しいんだということが言われてきました。こう問われている中で、知事公室長、これから本当にどう対応していこうとしていますか。

○上原昭知事公室長 基地問題というのはある意味では基地の存在があるがゆえに発生するわけで、そういう意味では外国の軍隊が国内に存在することの是非については、今後ともいろいろと議論をすべきだろうと思っています。日本の防衛力のあり方も含めて、議論される必要があるだろうと思っていますが、やはり地域住民にとっては、外国の軍隊が地域にあるということはいいことではないと思いますし、基地についてもできるならば県外へ移していくということが望ましい。これは知事も県外がベストであると、県民全員が思うことかと思っておりますが、やはり現実の問題として、目の前の基地を一つ一つ整理縮小しなくしていくという課題に、今全力で取り組む。そのことが事件、事故の発生も少なくしていくということにつながると思いますので、現在進められている米軍再編のもとで、海兵隊のグアム移転等あるいは一部訓練の県外での実施等々によって、基地の負担を減らしていくと。そこに知事を先頭に全力を尽くすべきだろうということだと思っております。

○新川秀清委員 今の御答弁にもありますように、根を絶つということは、基地を減らしなくしていくというのがベストだというのは、知事もかねがね言っていますからね。そういうことでの取り組みはもちろんです、それと嘉手納基地の司令官がこんなことを言ったことがあるんですよ。この司令官はヨーロッパとかあちこち勤務した経験を持っていて、この方の言ったことなんで

すが、もしほかの国で今米軍がやっているようなことをやったら、駐留はできなくなると。こんなことをある司令官が言っていたんです。それほどまで沖縄や日本では、米軍はやりたい放題だということです。この司令官は自分の体験からそういうことを言ってくれたのです。できるだけ地域のことにについては、例えば文化財の保護や、自分たちのできることを精いっぱいやるという姿勢も見せてくれた司令官がいたんです。私は非常に良識的だと思っているのですが、そういう司令官の目、軍人の目から見ても、沖縄や日本における米軍のやり方は勝手放題、やりたい放題だと映っているということです。そうしますと、これを許さない、そして基地を再編とか嘉手納基地以南についてとよく出ていますが、これは今現実に我々の目に見える形にはなっていませんよ。そのことをなくしては、今後この種の事件を減らすのは非常に難しいと。これも米軍人・軍属等による事件・事故防止のための協力ワーキングチーム、それから綱紀粛正、教育といろいろ言ってみた。結果はこういうことです。それについて、県はしっかり取り組んでほしいということを申し上げたいわけです。それについて決意をお聞かせください。

○上原昭知事公室長 事件、事故をなくす抜本的な取り組みというのは、やはり基地を整理縮小していくということが現実的な課題だと思っております。それに全力で、知事を先頭に取り組んでいくということと同時に、現在駐留している米軍のモラルの問題等について、若い兵隊の犯罪が多いわけですから、教育はさらに徹底して、地域住民と決してトラブルを起こしてはいけないという状況を、我々は米軍や政府に強く申し入れ、努力していきたいと考えております。

○新川秀清委員 1つ要望しておきたいのですが、先ほどから嘉陽委員や喜納委員からもありましたが、基地の外に居住している米軍の実態を、ぜひ把握して明らかにしていただきたい、ということをもまず要望します。それから刑事部長に1つお尋ねしたいのですが、今度の事件を考えますと、沖縄市内でこの子は車に乗せられた。そして事件が起こったのは北谷町だと。この米軍人が住んでいたのは北中城村ですよね。全部基地にかかわる地域でのことなんですね。そういうことで私はこれまで本会議でもたびたび取り上げてきましたが、先ほどと関連して刑事部長の答弁によりますと、沖縄県警察の渉外警ら隊等によって警らしているということですが、この事件の起こっている北谷町、沖縄市はかなりの数で事件が起こっている地域です。こういった中で、今米軍の数というのは警察の配置基準の中に入っていないということがありますよね。

○日高清晴刑事部長 今県警察は警察官の増員を要請するときは、知事にもお願いして東京に行ってもらっているのですが、米軍の構成員、家族を含めた4万8000人を入れて要請はしています。ですがやはり向こうとしては、県民の人数に応じて配置しているという状況です。

○新川秀清委員 ですからそこが問題だということを前から申し上げているんですよ。今度の事件もそうですよね。北谷町美浜や金武町など基地のあるところはみんなそうじゃないですか。ちょっと強い言い方をすれば、かなりの率で犯罪を起こしている米軍がいる地域で、この部分は別にして、県民の人口割でしか警察官の配置ができないということは、警ら隊のパトロールの問題もありましたが、私はこれはいかんだらうと思うんですよ。これは前にも知事を通して要請していると御答弁がありました。しかし現実にそのことは加味されていないわけですよ。これを今後政治的なことを含めて、強く要請すべきだと思いますし、基地の周辺の警ら、派出所や交番などを充実していくということが、子供たちを含めた日常の生命を守り安全管理をしていく上で欠かせないと思うんです。これをしっかりやっていただきたいと思うんですが、特に議会はもう予算特別委員会に入りますが、新年度に向けて対策はおありですか。

○日高清晴刑事部長 新年度はすぐ始まりますので、持ち帰りまして直接の担当部長等とも相談しまして、新年度からそういう要求をしていきたいと思っております。

○親川盛一委員長 ほかに質疑はありませんか。
嘉陽宗儀委員。

○嘉陽宗儀委員 基地外に住んでいる実態は知らないと言っていたけど、実際上は住民登録をしていないんですよ。そのために基地内が治外法権ならまだわかるけど、基地外に出てきて住民登録もしない、県民の税金も納めていないが公共サービスを受ける。しかしその兵隊どもは、今でも民間地域においても治外法権扱いをされるというのは異常ですよ。実態を調べるためにはぜひ住民登録を要求して、正確な人員を掌握できるように取り組んでもらえませんか。

○上原昭知事公室長 軍人の住民登録が可能かどうか、非常に厳しいものがあるのかなと思いますが、関係機関とも相談していきたいと思っております。

○親川盛一委員長 ほかに質疑はありませんか。

(「質疑なし」と呼ぶ者あり)

○親川盛一委員長 質疑なしと認めます。

以上で、在沖米海兵隊員による少女暴行事件について及び在沖米海兵隊員によるタクシー強盗致傷事件についての質疑を終結いたします。

休憩いたします。

(休憩中に、執行部退席)

○親川盛一委員長 再開いたします。

在沖米海兵隊員による少女暴行事件について、議員提出議案として、意見書及び抗議決議を提出するかどうかについて、休憩中に御協議をお願いいたします。

休憩いたします。

(休憩中に、意見書及び抗議決議の提出及び文案調整等について協議した結果、意見書及び抗議決議を提出することや、文案は案のとおりとすることなどで意見の一致を見た。)

○親川盛一委員長 再開いたします。

議員提出議案として在沖米海兵隊員による少女暴行事件に関する意見書及び同抗議決議を提出することなどについては、休憩中に御協議いたしましたとおりに決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○親川盛一委員長 御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

以上で、本日の議題はすべて終了いたしました。

次回は、2月28日 木曜日 各常任委員会終了後に委員会を開きます。

委員の皆さん、大変御苦労さまでした。

本日の委員会は、これをもって散会いたします。

沖縄県議会委員会条例第27条第1項の規定によりここに署名する。

委員長 親川盛一